

\*\*\*\*\*  
\*\*  
\*\* ソフトウェア説明書 \*\*  
\*\*  
\*\* Interstage List Creator Enterprise Edition 体験版 V9.0.1 \*\*  
\*\*  
\*\*\*\*\*

ソフトウェア説明書は、製品の取り扱い、ご使用に際して特に注意すべき事項、参考となる情報等を記したものです。

CD-ROMに収められた各ソフトウェアの使用方法や注意事項については、CD-ROMに収められたPDF形式のオンラインマニュアルをお読みください。

[本製品について]

Interstage List Creator Enterprise Edition 体験版（以降、体験版と表記）は、実際の製品を評価するために使用できます。

体験版に含まれているプログラムの使用期間はインストール後90日に限定されており、この期間を超えてプログラムを使用することはできません。

本プログラムは評価用プログラムであるため、富士通株式会社（以降、富士通と表記）は、本プログラムに関して一切の動作保証をするものではありません。また、本プログラムに不備があっても、富士通はその修正および、その他いかなる保守作業をする義務も負いません。

富士通は、本プログラムで発生した結果、および生成物について保証するものではありません。また、本プログラムの使用により生じた損害ならびに、第三者に直接または間接的に生じた損害について、富士通は法律上の根拠を問わずいかなる責任も負わないものとし、お客様はいかなる請求もしないものとします。

本プログラムを改造したり、あるいは逆コンパイル、逆アセンブルを伴うリバースエンジニアリングを行う事ができません。

製品版と体験版の違いについては、「10. 製品版と体験版の違い」を参照してください。

[高度な安全性が要求される用途への使用について]

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客さまがハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

本ソフトウェア説明書では、各製品を次のように略記しています。あらかじめご了承ください。

- ・「Microsoft (R) Windows (R) 2000 Professional operating system、および Microsoft (R) Windows (R) 2000 Server operating system、および Microsoft (R) Windows (R) 2000 Advanced Server operating system」  
→ 「Windows2000」
- ・「Microsoft (R) Windows (R) XP Professional operating system、および Microsoft (R) Windows (R) XP Home Edition operating system」  
→ 「WindowsXP」
- ・「Microsoft (R) Windows Server (R) 2003, Standard Edition、および

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition」
- 「Windows Server 2003」
- ・ 「Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Business、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium、および
- Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic」
- 「WindowsVista」
- ・ 「Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise、および
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)」
- 「Windows Server 2008」
- ・ 「Microsoft(R) インターネット インフォメーション サービス」
- 「IIS」
- ・ 「Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Standard Edition、および
- Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Enterprise Edition」
- 「SQL Server 2005」
- ・ 「Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Integration Services」
- 「SSIS」
- ・ 「Microsoft(R) SQL Server(TM) 2005 Business Intelligence Development Studio」
- 「SQL Server 2005 Development Studio」
- ・ 「Fujitsu XML Library」
- 「XML Library」
- ・ 「Interstage List Creator Enterprise Edition」
- 「List Creator EE」
- ・ 「Interstage List Creator Standard Edition」
- 「List Creator SE」
- ・ 「Interstage List Creator Workstation」
- 「List Creator Workstation」
- ・ 「Interstage List Creator Connector」
- 「List Creator Connector」
- ・ 「Interstage List Creator デザイナ」
- 「List Creator デザイナ」
- ・ 「Interstage List Creator」
- 「List Creator」
- ・ 「SystemWalker/ListCREATOR、および Systemwalker ListCREATOR」
- 「ListCREATOR」

本ソフトウェア説明書は、以下の構成で記述されています。

1. 製品概要
2. 動作環境
3. インストール／アンインストールについて
4. Web手元印刷機能について
5. インターネット環境での利用とセキュリティについて
6. Fujitsu XML Libraryについて
7. 帳票Webサービス機能について
8. SSIS連携機能について
9. Java実行環境パッケージについて
10. 製品版と体験版の違い
11. オンラインマニュアルについて
12. サンプルについて

- 13. デジタル署名について
- 14. 制限事項
- 15. 留意事項
- 16. ご使用条件

## 1. 製品概要

List Creatorは、本格的なビジネス帳票を設計し、出力するためのソフトウェアです。

List Creatorを使用すると、罫線や網がけなどを駆使した見やすいビジネス帳票を簡単にプリンタやPDFなどに出力できます。

本製品は、1枚のCD-ROM媒体で構成されています。  
CD-ROMに収められている主なファイルは、以下のとおりです。

¥ ---+--	Readme.txt	ソフトウェア説明書 (本書)
---	+	
---	Autorun.exe	List Creator EEのイン ストーラ
---	+	
---	Manual¥ --	
---	LCMaNavi.exe	マニュアルナビ(*1)
---	<Web手元印刷機能プラグイン>	
---	+	
---	plugin¥ --	
---	f3gxplg.exe	Webプラグインのイン ストーラ
---	<Web手元印刷機能 障害調査用情報採取ツール>	
---	+	
---	Oarsw¥ ---+--	
---	OARSdtW.exe	Administrator用障害 調査用情報採取ツール (*2)
---	---	
---	OARSUsrW.exe	一般ユーザ用障害調査 用情報採取ツール
---	<PDF手元非表示印刷機能>	
---	+	
---	PDFprint¥ --	
---	setup.exe	PDF手元非表示印刷 クライアント環境設定 ツール
---	<Fujitsu XML Library>	
---	+	
---	XML¥ --	
---	FujitsuXMLLib.msi	Fujitsu XML Library のインストーラ
---	<帳票Webサービス機能>	
---	+	
---	LCWebSvc¥ --	
---	setup.exe	帳票Webサービス機能 のインストーラ
---	<SSIS連携機能>	
---	+	
---	LCSSIS¥ --	
---	setup.exe	SSIS連携機能の インストーラ

(\*1) マニュアルナビとは、オンラインマニュアルを参照するためのツールです。詳しくは、「11. オンラインマニュアルについて」を参照してください。

ださい。

- (\*2) Administrator用障害調査用情報採取ツールとは、Administrators権限を持つユーザでのみ実行可能なツールです。

<Web手元印刷機能プラグインについて>

Web手元印刷機能プラグインは、OWFファイルをWebブラウザから参照、および印刷するためのWebブラウザ用のプラグインです。このプラグインをクライアントPCに適用することにより、クライアントPCからWebサーバ上のOWFファイルをWebブラウザ上で参照、および手元印刷することができます。

<Web手元印刷機能 障害調査用情報採取ツールについて>

Web手元印刷機能でトラブルが発生した場合、調査用資料(List Creatorの情報とシステム情報)を一度に漏れなく採取します。詳細については、オンラインマニュアル「トラブルシューティング・メッセージ集」の「8.3 Web 手元印刷コンポーネント機能/Web アプリケーション連携機能使用時のトラブルの情報を採取する」を参照してください。

<PDF手元非表示印刷機能について>

PDF手元非表示印刷クライアント環境設定ツールは、PDFファイルをWebブラウザから非表示で印刷するためのクライアントPCの環境設定を行うツールです。このツールをクライアントPCに適用すると、PDF手元非表示印刷に必要な情報を、オペレーティングシステムに登録します。詳細については、オンラインマニュアル「PDF 変換機能編」の「2.5 PDF 手元非表示印刷の環境設定」を参照してください。

<Fujitsu XML Libraryについて>

List CreatorでXML形式の入力データを使用して帳票出力する場合に必要です。

List Creatorには、Fujitsu XML Library V5.2を同梱しています。

- (\*Fujitsu XML Libraryは、XML SDK のFujitsu XMLプロセッサに含まれる

Windows版 COMコンポーネントの実行ライブラリです。

XML Libraryは、DOMおよびSAXアプリケーションインタフェースを提供しています。

<帳票Webサービス機能について>

帳票Webサービスは、帳票出力を行うWebサービスです。SOAP-RPC方式の帳票出力インタフェースを提供します。

<SSIS連携機能について>

SSIS連携機能は、SSISを使って帳票を出力する機能です。SSISでList Creatorを利用するためのデータ フロー コンポーネントを提供します。

帳票出力にはList Creatorを使用します。SSISパッケージを実行することによりList Creatorを実行し、帳票を出力します。

## 2. 動作環境

### 2. 1 ソフトウェア

本製品をご使用になるには以下のソフトウェアが必要です。

#### 基本ソフトウェア

サーバ:

(1) オペレーティングシステム

- Microsoft (R) Windows (R) 2000 Server operating system
- Microsoft (R) Windows (R) 2000 Advanced Server operating system
- Windows Server 2003
- Windows Server 2008

(2) Webサーバ(\*)

下記のWebサーバで動作確認をしております。

- Internet Information Server
- Interstage HTTP Server

(\*) ご使用になる機能によりWebサーバが異なりますので、詳細はオンラインマニュアルの「環境設定・帳票運用編」または「Web手元印刷コンポーネント機能編」でご確認ください。

Web手元印刷機能のクライアント：

(1) オペレーティングシステム

- Windows2000
- WindowsXP
- Windows Server 2003
- WindowsVista
- Windows Server 2008

(2) Webブラウザ

- Internet Explorer 6.0以降

関連ソフトウェア

(1) 出力方法により必要となるソフトウェア製品

帳票の出力先によって次のソフトウェア製品が必要です。

出力方法	出力先	
必要なソフトウェア製品		
共通		
		SystemWalker/CharsetMGR V5.1L20以降 Interstage Charset Manager Standard Edition V6.0L10以降 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent V6.0L10以降 または または (*3)
印刷(*1)	プリンタ	
		SystemWalker/PrintMGR SE V5.0L20以降 Interstage Print Manager Standard Edition V6.0L10以降 または (*4)
電子保存(*2)	電子保管フォルダ	
		SystemWalker/ListWORKS EE/SE V10.0L10以降 Interstage List Works Standard Edition V6.0L10以降 Interstage List Works Enterprise Edition V6.0L10以降 または または
FAX(*2)	FAX	
		SystemWalker/PrintMGR SE V10.0L20 以降 Interstage Print Manager Standard Edition V6.0L10以降 または (*4)
		IPBisarioSERVE FaxMGR V5L10以降 (*5)
ファイル(*2)	ファイル	

- \*1 : イベント通知機能を使用する場合は、SystemWalker/PrintMGR SE V10.0L20以降またはInterstage Print Manager Standard Edition V6.0L10以降が必要です。
  - \*2 : Web手元印刷機能では出力できません。
  - \*3 : 帳票や入力データで利用者定義文字を使用し、PDFファイル保存する場合に、必要です。  
なお、ADJUST またはV5.1L20 より前のSystemWalker/CharsetMGR がインストールされている環境では、List Creator が正しく動作できない場合があります。
  - \*4 : 高度な印刷業務を行う場合、電子保存装置 (ListWORKS仮想プリンタ) を高信頼プリンタに設定して電子保存する場合、電子保存した帳票をFAX送信する、またはList Creator の帳票をFAX送信する際に必要です。イベント通知機能を使用する場合は、SystemWalker/PrintMGR V10.0L20以降、またはInterstage Print Manager V6.0L10以降が必要です。
  - \*5 : 電子保存した帳票をFAX送信する、またはList Creator の帳票をFAX送信する場合、SystemWalker/PrintMGR V10.0L20以降、またはInterstage Print Manager V6.0L10以降が必要です。
- (2) XML形式の入力データを使用して帳票を出力する場合に必要なソフトウェア製品
- Fujitsu XML Library V3.0以降、または富士通XMLプロセッサ V3.0以降 (\*1)
  - Internet Explorer
- \*1 : 帳票資源の格納先、または帳票の出力先をUNC指定とする場合は、Fujitsu XML Library V5.2以降が必要です。
- (3) OCI連携機能によるデータベース (Oracle) 連携を使用する場合に必要なソフトウェア製品
- List CreatorでのOCI連携機能によるデータベース (Oracle) 連携は、Oracle8/Oracle8i/Oracle9iをサポートしています。OCI連携機能によるデータベース (Oracle) 連携を使用する場合は、Oracleに添付されるOracle Call Interfaceが必要です。
- (4) PDFメール配信機能の連携ソフトウェア製品
- PDFメール配信機能では、SecurePackageと連携できます。電子メールより高い信頼性が要求されるような場合には、SecurePackageを追加インストールすることでSecurePackageを用いた信頼性の高いファイル配信が可能となります。詳細については、オンラインマニュアル「PDF 変換機能編」の「2.1.4 セキュアなメール配信を行う」を参照してください。
- (5) コネクタ連携時に必要となるソフトウェア製品
- 帳票の出力先によって帳票出力サーバに次のソフトウェア製品が必要です。

List Creator Connectorのみでは帳票を出力できません。

- Windows版 List Creatorと連携する場合  
印刷するにはList Creator EE/SE V6.0L10以降が必要です。  
電子保存するにはList Creator EE/SE V6.0L10以降が必要です。  
FAXに出力するにはList Creator EE/SE V6.0L10以降が必要です。  
PDFファイルを出力するにはList Creator EE V6.0L10以降が必要です。  
OWFファイルを出力するにはList Creator EE V6.0L10以降が必要です。  
Excelファイルを出力するにはList Creator EE V9.0.0以降が必要です。
- Solaris版 List Creatorと連携する場合  
印刷するにはList Creator EE/SE 6.0以降が必要です。  
電子保存するにはList Creator EE/SE 6.0以降が必要です。  
PDFファイルを出力するにはList Creator EE 6.0以降が必要です。  
OWFファイルを出力するにはList Creator EE 6.0以降が必要です。

Excelファイルを出力するにはList Creator EE V9.0.0以降が必要です。

- Linux for x86版 List Creatorと連携する場合  
印刷するにはList Creator EE/SE V7.0L10以降が必要です。  
PDFファイルを出力するにはList Creator EE V7.0L10以降が必要です。  
OWFファイルを出力するにはList Creator EE V7.0L10以降が必要です。
- Linux for Itanium版 List Creatorと連携する場合  
印刷するにはList Creator EE V7.0L10以降が必要です。  
電子保存するにはList Creator EE V9.0.0以降が必要です。  
PDFファイルを出力するにはList Creator EE V7.0L10以降が必要です。  
OWFファイルを出力するにはList Creator EE V7.0L10以降が必要です。  
Excelファイルを出力するにはList Creator EE V9.0.0以降が必要です。

また、Windows版 List Creator EE/SE V8.0.1以前、Solaris版 List Creator EE/SE V8.0.1以前、Linux for x86版 List Creator EE V7.0L10以前、またはLinux for Itanium版 List Creator EE V7.0L10以前と連携する場合は、帳票出力サーバ側にあらかじめJ2SEをインストールしておく必要があります。

- (6) Navigator連携機能を使用して帳票を出力する場合に必要なソフトウェア製品
  - Interstage Navigator Server V8.0以降に同梱のアプリケーション連携モジュール
- (7) XBRLデータ対応機能を使用して帳票を出力する場合に必要なソフトウェア製品
  - Interstage XWand サーバ運用パッケージ V7.0L20以降 (Java実行環境も必要です。詳しくは、オンラインマニュアルの「XBRLデータ対応機能編」を参照してください。)
  - 富士通XMLプロセッサ
- (8) 帳票Webサービス機能を使用して帳票を出力する場合に必要なソフトウェア製品
  - IIS 5.0、または 6.0、または 7.0
  - Microsoft (R) .NET Framework 1.1 (日本語版)、または Microsoft (R) .NET Framework 2.0 (日本語版)、または Microsoft (R) .NET Framework 3.0 (日本語版)、または Microsoft (R) .NET Framework 3.5 (日本語版)
  - ユーザアプリケーションの開発環境  
ユーザアプリケーションの作成には、以下のいずれかの開発環境が必要です。
    - Interstage Studio (Apworks) V7.0、V8.0、またはV9.0
    - Microsoft (R) Visual Studio .NET 2003
    - Microsoft (R) Visual Studio 2005
- (9) SSIS連携機能を使用して帳票を出力する場合に必要なソフトウェア製品
  - Microsoft (R) SQL Server (TM) 2005 Enterprise Edition (x86) Integration Services
  - Microsoft (R) SQL Server (TM) 2005 Standard Edition (x86) Integration Services
- (10) COBOLインタフェースを利用する場合に必要なソフトウェア製品
  - COBOL97 V40L10 以降
  - NetCOBOL for Windows V7.2 以降
- (11) COBOLアプリケーション連携を利用する場合に必要なソフトウェア製品
  - ・ COBOL アプリケーションを開発する
    - NetCOBOL 開発パッケージ for Windows V8.0 以降(\*1)
  - ・ COBOL アプリケーションを実行する
    - NetCOBOL サーバ運用パッケージ for Windows V8.0 以降(\*1)

\*1 : MeFt が同梱されている製品が必要です。

- (12) その他の関連ソフトウェア製品  
その他の関連ソフトウェア製品に関しては、富士通のホームページの  
Interstage 帳票ソリューション 関連製品を参照してください。

## 2. 2 必要ハードウェア

### (1) ディスク容量

List Creator EEをインストールする場合

- List Creatorのインストールフォルダ 約280MB
- オペレーティングシステムのシステムフォルダ 約20MB

Web手元印刷機能を使用する場合

Webコントロールを使用する場合

- オペレーティングシステムのシステムフォルダ 約30MB

Webプラグインを使用する場合

- Webプラグインのインストールフォルダ 約25MB
- オペレーティングシステムのシステムフォルダ 約5MB

帳票Webサービス機能を使用する場合

- 帳票Webサービスのインストールフォルダ 約1MB
- オペレーティングシステムのシステムフォルダ 約3MB

帳票を出力する場合

帳票を出力する場合、List Creatorの作業用ディレクトリに一時ファイルを作成します。1回の帳票出力に使用するディスク容量は以下のとおりです。以下を参考にし、List Creatorの作業用ディレクトリがあるディスクの空き容量を十分確保しておいてください。

帳票出力形態	必要となる空き容量
帳票出力コマンドを実行する場合	約20 [KB]
リモート帳票出力を使用して帳票出力サーバ側で帳票出力コマンドを実行する場合	約20 [KB] + 転送するデータ(*) のサイズ

(\*) 転送するデータには、データファイル、イメージデータなどがあります。

到着監視機能を使用する場合

帳票を出力する場合、List Creatorの作業用ディレクトリに一時ファイルを作成します。1回の帳票出力に使用するディスク容量は以下のとおりです。以下を参考にし、List Creatorの作業用ディレクトリがあるディスクの空き容量を十分確保しておいてください。

帳票出力形態	必要となる空き容量
到着監視機能を使用する場合	約20 [KB]

PDF変換機能を使用して帳票を出力する場合

PDF変換機能ではList Creatorの作業用ディレクトリに一時ファイルを作成します。必要となるディスクの空き容量は、PDF変換する帳票出力形態に依存しますが、目安は以下のとおりです。

帳票出力形態	必要となる空き容量
--------	-----------

フォントの埋め込み実行時	50 [MB]
PDFフォント登録時	約200 [KB] × 登録する書体数

#### PDFメール配信機能を利用する場合

PDFメール配信機能では、メール配信が完了するまでキュー保存フォルダ(\*)に一時ファイルを作成します。1回の電子メール配信で必要となるディスクの空き容量は、以下のとおりです。以下を参考にし、キュー保存フォルダがあるディスクの空き容量を十分に確保してください。

(\*) 「List Creatorのインストールフォルダ¥mailqueue」です。

PDFファイル概要	必要となる空き容量
50[KB]のPDFファイル	100 [KB]

#### Excelファイル出力機能を使用して帳票を出力する場合

Excelファイル出力機能ではList Creatorの作業用ディレクトリに一時ファイルを作成します。必要となるディスクの空き容量は、Excelファイルに出力する帳票出力形態、および出力データに依存しますが、目安は以下のとおりです。

帳票出力形態	必要となる空き容量
明細を印刷範囲の縦幅でシートを変えて出力する場合(50[KB]のExcelファイル出力時)	300 [KB] (*)
明細を印刷範囲の縦幅でシートを変えずに出力する場合(50[KB]のExcelファイル出力時)	400 [KB] (*)

(\*) 出力されるExcelファイルサイズの6～10倍の空き容量が必要となります。

#### 監査証跡ログを採取する場合

監査証跡ログを採取する場合、帳票出力1回につき、約200バイトのログが採取されます。

この値を目安に、監査証跡ログファイルのサイズを見積もってください。また、このログファイルのサイズおよび保管日数をもとに、ログファイルの格納ディレクトリにディスクの空き容量を十分に確保してください。

#### 帳票Webサービス機能を使用して帳票を出力する場合

帳票を出力する場合、帳票Webサービスのセットアップにて指定した実行アカウントの作業用ディレクトリ(TEMP、又はTMP環境変数に設定されたディレクトリ)に一時ファイルを作成する場合があります。

帳票Webサービスの1回の帳票出力に使用するディスク容量は以下の通りです。以下を参考にし、作業用ディレクトリがあるディスクの空き容量を十分に確保しておいてください。

使用するメソッド(LCWebSvcクラス)	必要となる空き容量
PrprintWithFormData	FormData.records パラメータに設定した 入力データのバイト 数

PrprintWithRetDataByMem	RetMemData.dataパラメタで復帰されるPDFデータのバイト数
PrprintWithFormDataRetDataByMem	FormData.recordsパラメタに設定した入力データのバイト数+ RetMemData.dataパラメタで復帰されるPDFデータのバイト数

SSIS連携機能を使用して帳票を出力する場合

帳票を出力する場合、TEMP、又はTMP環境変数に設定されたディレクトリに一時ファイルを作成します。1回の帳票出力で作成される一時ファイルのサイズは、SSISパッケージでList Creator変換先に入力するデータのバイト数です。

(2) メモリ資源

帳票を出力する場合

メモリ80Mバイト以上

Web手元印刷機能を使用する場合 (Webクライアントが使用するメモリ資源)

メモリ16Mバイト以上

到着監視機能を使用する場合

必要となるメモリ容量は、監視ディレクトリに配置されるファイル数、および環境設定の最大並列処理数、出力データに依存します。サンプル帳票 (個人就業実績3) を使用した場合のメモリ資源量は以下の通りです。

なお、最大並列処理数の値を大きく設定し、同時に帳票出力する数が多くなった場合、システムの負荷が高くなります。使用するマシンの性能に合わせて設定してください。

最大並列処理数	監視ディレクトリに配置されるファイル数		
	1	10	200
1	57.0	57.4	62.9
10	57.0	224.8	230.7
100	57.0	224.9	1,907.6

[単位：Mバイト]

帳票Webサービス機能を使用する場合

帳票出力に使用するLCWebSvcクラスのメソッド毎の1回の帳票出力に必要なメモリ資源量は以下の通りです。

使用するメソッド (LCWebSvcクラス)	必要なメモリ資源量
Prprint	110MB以上
PrprintWithFormData	(110MB+ FormData.records パラメタに設定した

	入力データのバイト数 (KB)*25) 以上
PrprintWithRetDataByMem	(110MB+ RetMemData. dataパラメタで復帰されるPDFデータのバイト数 (KB)*10) 以上
PrprintWithFormDataRetDataByMem	(110MB+ FormData. recordsパラメタに設定した入力データのバイト数 (KB)*25+ RetMemData. dataパラメタで復帰されるPDFデータのバイト数 (KB)*10) 以上

SSIS連携機能を使用して帳票を出力する場合  
メモリ70Mバイト以上

Excel ファイル出力機能を使用して帳票を出力する場合  
必要となるメモリ容量は、Excelファイルに出力する帳票出力形態、および出力データに依存します。サンプル帳票（個人就業実績3）を使用した場合のメモリ資源量は以下の通りです。

帳票出力形態	10 ページ	100 ページ	1000 ページ
明細を印刷範囲の縦幅でシートを変えて出力する場合	9.2	12.3	38.1
明細を印刷範囲の縦幅でシートを変えずに出力する場合	10.5	39.8	303.9

[単位：Mバイト]

## 2. 3 環境変数の指定について

本製品のインストール時、環境変数PATHにList Creatorのインストールフォルダ名が自動的に追加されます。

## 3. インストール／アンインストールについて

お客様は本製品の体験または評価のために、本製品を1台のPCにインストールできます。

また、製品版をインストールする場合は、本製品、およびList Creatorの体験版をアンインストールしてからインストールしてください。

### 3. 1 インストール

#### 3. 1. 1 インストール手順

- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) Windows 2000 Server、Windows Server 2003、Windows Server 2008のターミナルサービスをお使いの場合は、オペレーティングシステムの状態をInstallモードに変更してください。

change user /install .... Installモードに変更する。

change user /execute .... Applicationの実行モードに変更する。

change user /query .... モードを表示する。

なお、本製品のインストール後はApplicationの実行モードに戻してください。

- (3) 本製品のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。  
インストールプログラムが自動的に起動されます。  
自動的に起動されない場合には、CD-ROM内のルート直下にあるAutorun.exe を実行してください。
  - (4) 「インストール」をクリックします。
  - (5) インストーラが起動されますので、表示されるメッセージにしたがってインストールを行います。
  - (6) コンピュータの再起動後、インストールを完了させるためにAdministratorsグループに属するユーザでログインします。
3. 1. 2 インストールに関する留意事項
- (1) 本製品のインストールは、必ず付属のインストールプログラムで行ってください。  
COPYコマンドなどで複製した場合は動作しません。
  - (2) インストールフォルダのパスには、「¥」の前後、およびパスの最後に半角空白を指定しないでください。
  - (3) 以下の製品がインストール済みのシステムに対して本製品をインストールすることはできません。該当製品をアンインストール後、本製品をインストールしてください。
    - 「List Creator EE」
    - 「List Creator EE ソフトウェアLOOK版」
    - 「List Creator EE 体験版」(\*1)
    - 「List Creator SE」
    - 「List Creator Workstation」
    - 「List Creator Connector」
    - 「List Creator デザイナ」
    - 「List Creator デザイナ ソフトウェアLOOK版」
    - 「List Creator デザイナ 体験版」(\*1)
    - 「SystemWalker/OutputASSIST」
    - 「SystemWalker for R/3 プリント連携」
    - 「SystemWalker for Oracle Applications プリント連携」
    - 「SystemWalker/e-DocGenerator」
    - 「デルバイ for MetaFrame」
    - 「Interstage List Manager」
    - 「Interstage List Manager Agent」
    - 「Interstage List Manager Workstation」
- \*1：バージョンレベルが同じ場合は、アンインストールする必要はありません。
- (4) 既に「Interstage List Creator for MetaFrame V6.0L10」、または「Systemwalker ListCREATOR for MetaFrame V10.0L30」をインストール済みのシステムに本製品をインストールする場合は、インストール済みの製品をアンインストールした後にインストールを行ってください。
  - (5) 本製品をインストール後は必ずコンピュータを再起動し、再起動後にAdministratorsグループに属するユーザでログインしてください。  
Administratorsグループに属するユーザでログインしないと一部モジュールがインストールされず、正しく動作しない場合があります。
  - (6) インストール直後の帳票格納ディレクトリは、以下のフォルダとなります。  
(インストールフォルダ)¥Assets

環境に合わせて、環境設定で変更してください。

- (7) 本製品がインストール済みのシステムに以下の製品はインストールすることができません。本製品をアンインストール後、該当製品をインストールしてください。
- 「List Creator EE」
  - 「List Creator SE」
  - 「List Creator Workstation」
  - 「List Creator Connector」
  - 「List Creator デザイナ」
  - 「Interstage List Manager」
  - 「Interstage List Manager Agent」
  - 「Interstage List Manager Workstation」
- また、本製品がインストール済みのシステムにList Creatorをインストールした場合、以下のメッセージが表示されます。
- 「製品版と体験版を同一のシステムにインストールすることはできません。」
- (8) PDFメール配信機能を使用するためには、サービス「ListCREATOR SendMaild Service」の起動が必要です。起動手順は、オンラインマニュアル「PDF 変換機能編」を参照してください。
- (9) コネクタ機能を使用するためには、アプリケーションサーバおよび帳票出力サーバでのセットアップが必要です。セットアップ手順は、オンラインマニュアル「環境設定・帳票運用編」を参照してください。
- (10) 帳票出力サーバにおいて、Windowsファイアウォール、インターネット接続ファイアウォール(ICF)または、その他のファイアウォール機能が有効な環境では、List Creatorが使用するポートがブロックされる設定になっていると、次の機能が使用できなくなります。
- リモート帳票出力機能
  - コネクタ連携機能

備考

Windowsファイアウォール、インターネット接続ファイアウォール(ICF)とは、WindowsVista、Windows Server 2008では標準でインストール、WindowsXP、Windows Server 2003ではService Packを適用するとインストールされる機能です。  
この機能は、悪意あるユーザまたはプログラムに対抗して一定レベルの保護をコンピュータに提供します。

この場合、以下の手順でWindowsファイアウォール、またはインターネット接続ファイアウォール(ICF)に、List Creatorが使用するポートを登録する必要があります。なお、以下の手順は、Windows Server 2003でWindowsファイアウォールのポートを登録する例となっています。

1. [コントロールパネル] の [Windows ファイアウォール] を選択します。
2. [全般] タブを選択し、[例外を許可しない] にチェックが入っている場合はチェックを外します。
3. [例外] タブを選択し、「ポートの追加」ボタンを押下してください。
4. 「ポートの追加」画面で入力項目に次の情報を入力してください。
  - 名前 : 任意の文字列を入力してください。
  - ポート : (注1)
  - TCP/UDP : TCP
5. 「ポートの追加」画面で「スコープの変更」ボタンを押下してください。
6. 「スコープの変更」画面で「カスタムの一覧」を選択し、リモート帳票出力時のアプリケーションサーバのIPアドレスを設定してください。
7. 「スコープの変更」画面で「OK」を押下してください。
8. データを入力後、「ポートの追加」画面で「OK」を押下してください。
9. [例外] タブの一覧に入力した名前が表示され、チェックが入っていることを確認してください。
10. 「Windows ファイアウォール」画面上で「OK」を押下して画面を閉じてくだ

さい。

(注1)

- リモート帳票出力機能の場合  
「環境設定」画面の「ネットワーク」タブのポート番号に設定されているポート番号を設定してください。初期値は、「9556」となっています。
- コネクタ連携機能の場合  
以下のフォルダに格納されているDaemonPropertyファイルの受信ポート番号 (receivePort) に設定されているポート番号を設定してください。初期値は、「3913」となっています。  
List Creatorインストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin

(11) インストール時にシステム環境変数PATHが長いなどの理由により、以下のメッセージが表示される場合があります。

「設定されている環境変数PATHが長すぎるため、List Creatorで必要な環境変数PATHの設定ができませんでした。  
ソフトウェア説明書を参照し、環境変数PATHを設定してください。」

上記の場合、システム環境変数PATHから不必要なパスを削除し、List Creatorのインストールディレクトリを設定してください。  
環境変数の設定方法については、Windowsのヘルプを参照してください。  
なお、List Creatorのデフォルトのインストールパスは「C:¥ListCREATOR」です。

(12) Windows Defender がインストールされている環境に本製品をインストールした場合、Windows Defender の履歴に以下の内容が「警告レベル：不明」として記録されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。

- リソース： service:ListCREATOR Log Service
- リソース： service:ListCREATOR RemotePrint
- リソース： service:ListCREATOR Connector
- リソース： service:F3GBSService
- リソース： service:ListCREATOR SendMaild Service
- リソース： regkey:HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥RunOnce¥¥List Creator
- リソース： regkey:HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥RunOnce¥¥ListCREATOR SAP Monitor

(13) 本製品、および本製品のCD-ROM媒体に含まれる製品がインストールされているオペレーティングシステムをアップグレードする場合、本製品、および本製品のCD-ROM媒体に含まれる製品をアンインストールしてから、オペレーティングシステムのアップグレードを行なってください。  
また、オペレーティングシステムのアップグレード後に必要な製品をインストールしてください。

3. 1. 3 List Creator V9.0.1の他製品を同一マシンに追加インストールする手順

- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) List Creatorプログラムが動作中の場合は、アプリケーションを終了します。
- (3) インストールを行う製品のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。  
インストールプログラムが自動的に起動されます。  
自動的に起動されない場合には、CD-ROM内のAutorun.exe を実行してください。
- (4) 「インストール」をクリックします。
- (5) インストーラが起動されます。
- (6) 「変更」を選択し「次へ」ボタンを押します。
- (7) インストール済みの製品と、インストールを行おうとしている製品の製品名が

表示されます。確認し問題が無ければ「次へ」ボタンを押し表示されるメッセージに従ってインストールを続行します。

### 3. 1. 4 List Creator V9.0.1の他製品を同一マシンに追加インストールする場合の注意事項

- (1) 他製品を追加インストールする場合は、インストールフォルダのサブフォルダ配下のユーザ資源を退避してください。  
ユーザ資源とは以下のファイルです。
  - 帳票定義情報 (帳票格納ディレクトリ配下のファイル)
  - クエリ定義 (「インストールフォルダ¥Query」配下のファイル)
  - 仕分け定義 (「インストールフォルダ¥Assort」配下のファイル)
- (2) (インストールフォルダ)¥PrdocFMTフォルダは無条件で上書きされます。  
必要に応じて退避してください。

### 3. 2 アンインストール

#### 3. 2. 1 アンインストール手順

- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) PDFフォント登録機能にて、登録内容を削除します。  
「スタート」－「すべてのプログラム」－「List Creator」－「環境設定」の「PDFファイル フォント登録」を起動し、PDFフォント登録画面の右側の登録結果画面に登録されているフォントがある場合、全てのフォントを選択して「削除」ボタンにて登録削除処理を行って下さい。
- (3) List Creatorプログラムが動作中の場合は、アプリケーションを終了します。
- (4) [コントロールパネル] から「ListCREATOR」をアンインストールします。
- (5) コンピュータを再起動します。

#### 3. 2. 2 手動で製品を削除する場合の手順

インストール時の不測の事態により、再インストールまたはアンインストールが正常に動作しなくなった場合、以下の手順によりハードディスク上から全ての関連資産を削除することで元の環境に復旧することができます。

なお、この作業を行う前に起動中のアプリケーションをすべて終了させてください。

- (1) サービスを停止します。  
[コントロールパネル] の [管理ツール] の [サービス] を起動し、以下のサービスが起動されている場合に停止します。
  - ListCREATOR Service
  - ListCREATOR Log Service
  - ListCREATOR RemotePrint
  - ListCREATOR Connector
  - ListCREATOR SendMaild Service
  - Print Spooler

また、Webサーバがインストールされている場合、以下のWebサーバのサービスを停止します。

- World Wide Web Publishing Service
- F3FMwww (サービスが存在する場合)

- (2) ファイル/フォルダを削除します。
  - a) List Creatorのインストールディレクトリ  
[エクスプローラ] を起動し、インストール時に指定したフォルダを削除してください。  
以下にデフォルトのフォルダ名を記述します。これを参考に該当するフォルダを削除してください。

なお、該当するフォルダ配下にユーザ資源がある場合は、必要に応じて退避してください。

- (インストールドライブ):¥ListCREATOR
- b) Windowsディレクトリ配下System32サブディレクトリ内の以下のファイル
  - f3gbsmon.dat
  - f3gbsmon.dll
- (3) レジストリを削除します。  
[レジストリエディタ] (Windowsフォルダ配下のSYSTEM32サブフォルダ内の[REGEDT32.EXE]) を起動し、以下のレジストリキーのうち該当するキー配下を全て削除してください。
  - a) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu配下の以下のキー
    - ListCREATOR
    - SystemWalker/e-DocGenerator
    - SystemWalker/OutputASSIST
  - b) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Fujitsu¥Install配下の以下のキー
    - ListCREATOR
  - c) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog¥Application配下の以下のキー
    - ListCREATOR
    - ListCREATOR RemotePrint
    - ListCREATOR:e-Doc
    - ListCREATOR e-Doc
    - ListCREATOR:MeFt
    - ListCREATOR MeFt
    - ListCREATOR e-DocX
    - F3GBSVLG
    - F3GBCONC
  - d) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services配下の以下のキー
    - F3GBSService
    - ListCREATOR Log Service
    - ListCREATOR RemotePrint
    - ListCREATOR Connector
    - ListCREATOR SendMaild Service
  - e) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall配下の以下のキー
    - [9c4b7cdf-6d79-41b5-8620-c7ab2511b1e3]
  - f) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥App Paths配下の以下のキー
    - Prprint.exe
  - g) HKEY\_CURRENT\_USER¥SOFTWARE¥Fujitsu配下の以下のキー
    - SystemWalker/OutputASSIST

h) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Print  
¥Monitors配下の以下のキー

- FUJITSU ListCREATOR RDI Connect Port

(4) PATH (システム環境変数) を削除します。  
[コントロールパネル] の [システム] アイコンを起動し、[詳細] タブから [環境変数] を押して環境変数画面を表示します。システム環境変数の“Path”部を選択後、[編集] ボタンを押して編集画面を表示し“変数値”から(2)のフォルダパス、およびそのフォルダパスを含んだパス名をすべて削除し、[OK] ボタンを押します。

(5) アイコン／グループを削除します。  
[エクスプローラ] で以下のファイルを削除してください。

(システムドライブ):¥Documents and Settings¥All Users  
¥スタート メニュー¥プログラム配下の以下のフォルダ (\*1)

- List Creator

\*1:WindowsVista、または Windows Server 2008の場合、アイコン／グループのパスは以下の通りです。

(システムドライブ):¥ProgramData¥Microsoft¥Windows  
¥スタート メニュー¥プログラム

(6) インストーラのフォルダを削除します。  
[エクスプローラ] を起動し、以下のフォルダを削除してください。

- (%ProgramFiles%)¥InstallShield Installation Information  
¥[9C4B7CDF-6D79-41B5-8620-C7AB2511B1E3]

注: %ProgramFiles%は環境変数を表します。通常は以下のフォルダです。

- (システムドライブ):¥Program Files

(7) 上記操作の終了後、コンピュータの再起動を行ってください。

### 3. 2. 3 アンインストール時の留意事項

(1) アンインストール実行中に、キャンセルボタンを押下してアンインストールを中断した場合、アンインストール開始から中断までに削除された一部のファイルは復旧されません。また、一部の環境設定情報も削除されます。  
アンインストールを中断した場合、それ以降は製品が正しく動作しませんので、再度アンインストールを実行し、すべてのファイルおよび環境を削除した上で、再度インストールを行ってください。

(2) 帳票出力サーバにおいて、Windowsファイアウォール、インターネット接続ファイアウォール(ICF)または、その他のファイアウォール機能が有効な環境で本製品をアンインストールする場合、Windowsファイアウォール、インターネット接続ファイアウォール(ICF)に設定したList Creatorのポートを削除してください。

## 4. Web手元印刷機能について

### 4. 1 セットアップ

List Creator Web手元印刷機能を使用する場合、使用する機能と形態に合わせて、WebサーバとWebクライアントをセットアップしてください。詳細については、オンラインマニュアル「環境設定・帳票運用編」または「Web手元印刷コンポーネント機能編」を参照してください。

#### 4. 2 Web手元印刷機能のWebプラグインのインストールに関する留意事項

Web手元印刷機能のWebプラグインをインストールする場合に以下の留意事項があります。

- (1) 既に「SystemWalker/OutputASSIST Webプラグイン」をインストール済みのシステムに対してはインストールできません。「SystemWalker/OutputASSIST Webプラグイン」をアンインストール後、インストールを行ってください。
- (2) インストール後は必ずコンピュータを再起動してください。
- (3) Windows Defender がインストールされている環境に本製品をインストールした場合、Windows Defenderの履歴に以下の内容が「警告レベル：不明」として記録されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。
  - リソース： regkey:HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Run¥¥ListCREATOR Web-Plugin
- (4) Windows VistaにWeb手元印刷機能のWebプラグインをインストールした場合、イベントビューアのアプリケーションログに、以下のエラーが出力されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。
  - ソース： VSS
  - イベントID： 8194
- (5) インストール時にシステム環境変数PATHが長いなどの理由により、以下のメッセージが表示される場合があります。

「設定されている環境変数PATHが長すぎるため、OWF Webプラグインに必要な環境変数PATHの設定ができませんでした。  
ソフトウェア説明書を参照し、環境変数PATHを設定してください。」

上記の場合、システム環境変数PATHから不必要なパスを削除し、Web手元印刷機能のWebプラグインのインストールディレクトリを設定してください。  
環境変数の設定方法については、Windowsのヘルプを参照してください。  
なお、Web手元印刷機能のWebプラグインのデフォルトのインストールパスは「C:¥Program Files¥Web\_Plugin」です。

#### 4. 3 Web手元印刷機能のWebプラグインのアンインストールに関する留意事項

Web手元印刷機能のWebプラグインをアンインストールする場合に以下の留意事項があります。

- (1) Webプラグイン V9.0.1がインストール済みのシステムに、Webプラグイン V8.0.0以前の製品をインストール操作後、Webプラグイン V9.0.1をアンインストールできません。  
オンラインマニュアル「環境設定・帳票運用編」の「6.2.2 Web プラグインの環境設定」を参照して製品を削除してください。

#### 4. 4 インターネット環境での利用について

Web手元印刷機能をインターネット環境で利用したい場合には、Webアプリケーション連携機能のみ利用可能です。Webアプリケーション連携機能をインターネット環境で利用するには、プロキシのリバース機能を使用したネットワーク環境でのみ使用可能です。

詳細については、オンラインマニュアル「環境設定・帳票運用編」の「13.3 インターネット環境での利用」を参照してください。

なお、コンポーネント機能は、インターネット環境では使用できません。イントラネット環境内でのみ使用してください。

#### 5. インターネット環境での利用とセキュリティについて

List Creatorを使用して、インターネット対応のアプリケーション（たとえば、Webサーバ配下で動作するアプリケーション）を作成することができます。

ネットワーク環境では、不正なアクセスによるシステムおよび資源の改ざんや破壊、情報の漏えいなどの危険があります。このため、システムの構築にあたっては、Webサーバのユーザ認証機能と暗号化通信機能を使用し、さらに、アプリケーションでユーザ制限を行うなど、自己防衛手段を講じる必要があります。

このようにセキュリティは、作成されたアプリケーションおよびその運用環境全体の適切な設定と使用方法によって確保される必要があります。

なお、Web手元印刷機能のWebアプリケーション連携機能のみ、インターネット環境で使用することができます。この機能以外は、イントラネット環境下で使用してください。

## 5. 1 資源の保護

プログラム、データに関する資源(データベース、データファイル等)およびプログラムの動作に必要な各種の定義・情報ファイルは、OSの機能、Webサーバの認証機構または、プログラムによるアクセス制限を行い、不正なアクセスや改ざんから保護してください。特に重要な資源は、ファイアウォールを配置したイントラネット環境内に保持してください。

## 5. 2 アプリケーション作成のための指針

セキュリティを考慮したアプリケーションを作成するための参考にしてください。

### 1) 事前確認と処理結果の通知

対話・応答を行う処理の場合、重要なデータへのアクセスや処理については、事前の確認および処理結果を通知して、誤った処理を検知できる設計を行ってください。また、ログを記録すると処理の解析に役立ちます。

### 2) 匿名性

ユーザの実名、実物を識別できるデータについては、特に漏えいの危険性を考慮してください。

### 3) インタフェースの検査

外部インタフェースについては、バッファオーバーフロー(バッファオーバーラン)やクロスサイトスクリプティングなどを考慮して、セキュリティホールの作り込みを防止してください。バッファオーバーフローを防止するためには、外部インタフェースの入力データの長さ、型や属性などの検査が有効です。クロスサイトスクリプティングは、動的に生成されたページ中に意図しないタグが含まれないようにする事で防止できます。例えば、出力時にメタキャラクタをエスケープする方法があります。

### 4) 繰り返し実行

同じ接続先からの一定時間内でのリクエスト数を制限するなどの考慮をしてください。

### 5) 監査ログの記録

WebサーバやOSの監査ログ機能、アプリケーションによるログ出力処理の作成、および使用する製品の監査ログ機能などにより、セキュリティに関するイベントを記録して、セキュリティ侵害が発生した場合の分析や追跡方法を考慮してください。

### 6) セキュリティのためのルールの制定

セキュリティに関する脆弱な処理が無い堅牢なアプリケーションを作成するためには、セキュリティ侵害の脅威から保護すべき重要な資源を特定し、資源のアクセスやインタフェース設計のために特定のルールを制定することが有効です。

### 7) 通信データを暗号化して、インターネット上での接続を保護してください。通信データを暗号化するためには、SSL を利用してWebサーバとWebブラウザの間のHTTPメッセージを暗号化する方法があります。

## 6. Fujitsu XML Libraryについて

### 6. 1 Fujitsu XML Libraryのインストールと注意事項

List CreatorでXML形式の入力データを使用して帳票出力する場合に必要です。

製品媒体 (CD-ROM) のXMLフォルダ配下に格納されているFujitsuXMLLib.msiを起動します。以降は、インストールプログラムの指示に従ってインストールを進めてください。

XML Libraryのインストールを開始する前に、「6. 2 Fujitsu XML Libraryをインストールする前に」を参照してください。XML Libraryのインストール時に、「Windows Installerを起動できません。 管理者にお問い合わせください。」のメッセージが表示され、インストールが完了しない場合は、「6. 3 Fujitsu XML Libraryインストール失敗時の回避策について」を参照してください。

#### 6. 2 Fujitsu XML Libraryをインストールする前に

List Creator以外の製品にXML SDKまたはXML Libraryが同梱され提供されていることがあります。XML SDKまたはXML Libraryの提供する機能は、システム上に1つしか存在できませんので、他の製品が利用しているXML SDKまたはXML Libraryを無条件に置き換えることは、他の製品の動作不具合を招くことが考えられます。このため、現在お使いのシステムの状況を確認し、状況に合わせて対応する必要があります。

以下の手順でシステムの状況を確認し、インストール作業を実施してください。

- (1) 「コントロールパネル」から「アプリケーションの追加と削除」を選択してください。
- (2) 「現在インストールされているプログラム」一覧に、XMLプロセッサ（以下のいずれか）が存在するか確認してください。
  - Fujitsu XMLプロセッサ Vx.x
  - Fujitsu XML Processor Vx.x
  - Fujitsu XML Library (x.x.y.y)
- (3) XMLプロセッサが存在していない場合には、List Creatorに同梱されているXML Libraryをインストールしてください。
- (4) 既にインストールされているXMLプロセッサのバージョンレベル(x.xの部分)が、3.0、3.1、5.0、または5.2である場合は、List Creatorに同梱されているXML Libraryのインストールは不要です。  
ただし、帳票資源の参照先、または帳票の出力先をUNC指定とする場合は、Fujitsu XML Library V5.2以降をインストールしてください。
- (5) 既にインストールされているXMLプロセッサのバージョンレベルが、3.0未満である場合は、以下の手順で本製品をインストールしてください。  
現在XMLプロセッサを利用/同梱している製品を、V3.0、V3.1、V5.0またはV5.2のXML SDKに対応する版にバージョンアップした後、本製品をインストールしてください。

#### 6. 3 Fujitsu XML Libraryインストール失敗時の回避策について

Fujitsu XML プロセッサのインストール時に、Windows Installerコアモジュールのインストールで「Windows Installerを起動できません。 管理者にお問い合わせください。」のメッセージが表示され、インストールが完了しない場合があることが確認されています。

以下の手順に従って作業をしてください。

- (1) CD-ROMドライブにCD-ROMをセットします。
- (2) [スタート]—[すべてのプログラム]—[アクセサリ]のコマンド プロンプトを起動します。
- (3) 以下のコマンドラインを実行します。

D:¥xml¥Instmsiw.exe /c /t:C:¥temp¥msi

※CD-ROMドライブがDドライブの場合の例です。

このコマンドラインでは、「C:¥temp¥msi」フォルダの中に以下の Windows インストーラファイルを展開します。

展開先は約4.6MBの空きが必要です。

Cabinet.dll  
Imagehlp.dll  
Instmsi.msi  
Msi.dll  
Msiexec.exe  
Msihnd.dll  
Msiinst.exe  
Msimsg.dll  
Msls31.dll  
Mspatcha.dll  
Riched20.dll  
Shfolder.dll  
Usp10.dll

- (4) 以下のコマンドラインを実行します。

C:¥temp¥msi¥msiinst.exe /i instmsi.msi /qb+

- (5) 「Windows インストーラのセットアップを正しく完了しました。」 のメッセージが出てきたら、[OK] をクリックします。

- (6) Fujitsu XML Libraryをインストールします。

#### 6. 4 Fujitsu XML Library のアンインストール

Fujitsu XML Library のアンインストール方法について、以下に説明します。なお、他の製品で Fujitsu XML Library を使用している場合があります。Fujitsu XML Library をアンインストールする場合は、他製品が使用していないことを確認してください。

アンインストールは、以下の手順で実施してください。

- (1) コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を起動します。
- (2) 一覧より「Fujitsu XML Library (5.2.0025)」を選択し、[追加と削除]をクリックします。なお、インストールしている Fujitsu XML Library のバージョンレベルにより、表示されるバージョンレベルが異なる場合があります。
- (3) アンインストーラ起動後は、画面の表示に従いアンインストールを続行してください。

#### 7. 帳票Webサービス機能について

##### 7. 1 インストール

##### 7. 1. 1 インストール手順

- (1) インストール先のサーバを再起動します。
- (2) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (3) CD-ROMの¥LCWebSvc¥setup.exe を起動します。
- (4) インストーラが起動されますので、表示されるメッセージにしたがってインストールを行います。
- (5) コンピュータを再起動して、Administratorsグループに属するユーザでログインします。

- (6) オンラインマニュアル「帳票Webサービス機能編」の「第2章 帳票Webサービスを使用するための準備」のセットアップの項目を参照し、帳票Webサービスのセットアップを実行してください。

#### 7. 1. 2 インストールに関する留意事項

- (1) 本機能のインストールは、必ず付属のインストールプログラムで行ってください。COPYコマンドなどで複写した場合は動作しません。
- (2) 本機能のインストールの前に、サーバに以下を事前に必ずインストールしてください。
- IIS
  - Microsoft(R) .NET Framework 1.1 (日本語版)、または  
Microsoft(R) .NET Framework 2.0 (日本語版)、または  
Microsoft(R) .NET Framework 3.0 (日本語版)、または  
Microsoft(R) .NET Framework 3.5 (日本語版)
- (3) 本機能をインストール後は必ずコンピュータを再起動してください。
- (4) インストール実行時に、IISにポート番号80のWebサイトが存在しない場合、ポート番号80の「既定の Web サイト」を作成し、その配下に「LCWebSvc」の仮想ディレクトリを作成します。
- (5) ポート番号80以外のポート番号で帳票Webサービスを使用する場合は、本機能のインストールを以下の手順で行ってください。
- (Windows2000、またはWindows Server 2003の場合)
- (a) 「7. 1. 1 インストール手順」に記された手順で、本機能のインストールを実行します。
- (b) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」を以下のよう  
に起動します。
- (Windows Server 2003の場合)  
[スタート]－[すべてのプログラム]－[管理ツール]－[インターネット  
インフォメーション サービス (IIS) マネージャ]
- (Windows2000の場合)  
[スタート]－[プログラム]－[管理ツール]－[インターネット サービス  
マネージャ]
- (c) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面  
で、以下のように展開します。
- (Windows Server 2003の場合)  
[インターネット インフォメーション サービス]－[<<サーバ名>>(ローカル  
コンピュータ)]－[Web サイト]－[既定の Web サイト] (\*)
- (Windows2000の場合)  
[インターネット インフォメーション サービス]－[<<サーバ名>>]－[既定  
の Web サイト] (\*)
- (\*注) [既定の Web サイト]はポート番号が80のものを展開します。
- (d) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面の  
一覧に[LCWebSvc]が存在すれば、右ボタンクリックし[削除]を実行します。
- (e) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面の  
一覧に表示された、帳票Webサービスを使用するポート番号のWebサイト上で  
右ボタンクリックし[新規作成]－[仮想ディレクトリ]を実行します。
- (f) 「仮想ディレクトリの作成ウィザード」が起動します。「仮想ディレクトリ  
の「作成ウィザードの開始」画面では[次へ]をクリックします。
- (g) 「仮想ディレクトリ エイリアス」の画面では、[エイリアス]に“LCWebSvc”を  
設定して、[次へ]をクリックします。
- (注) “LCWebSvc”は、この通りの綴りで英大文字/英小文字を設定してください。
- (h) 「Webサイトのコンテンツのディレクトリ」画面では、以下のディレクトリを  
設定して、[次へ]をクリックします。
- <<帳票Webサービスのインストールディレクトリ>>%inetpub%LCWebSvc  
以下にデフォルトのインストールディレクトリを示します。
- (インストールドライブ):%Program Files%LCWebService (\*1)
- または

- (インストールドライブ):¥Program Files (x86)¥LCWebService (\*2)
- (\*)1)32bit OSの場合。(\*)2)64bit OSの場合
- (i) 「仮想ディレクトリのアクセス許可」画面では[読み取り]と[ASPなどのスクリプトを実行する]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。
- (j) 「仮想ディレクトリの作成ウィザードは正常終了しました」の画面が表示されたら、[完了]をクリックします。
- (k) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」画面を閉じます。

(Windows Server 2008の場合)

- (a) 「7. 1. 1 インストール手順」に記された手順で、本機能のインストールを実行します。
- (b) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」を以下のように起動します。  
[スタート]-[すべてのプログラム]-[管理ツール]-[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ]
- (c) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面で、以下のように展開します。  
[<<帳票Webサービスが動作するサーバ名>>]-[サイト]-[Default Web Site]または[既定の Web サイト] (\*)  
(\*) ポート番号が80のものを展開します。
- (d) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面の一覧に[LCWebSvc]が存在すれば、右ボタンクリックし[削除]を実行します。
- (e) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面の一覧に表示された、帳票Webサービスを使用するポート番号のWebサイト上で右ボタンクリックし[アプリケーションの追加]を実行します。
- (f) 「アプリケーションの追加」が起動します。[エイリアス]に“LCWebSvc”を設定します(注：“LCWebSvc”は、この通りの綴りで英大文字/英小文字を設定してください)。  
[物理パス]には、以下のディレクトリを設定します。  
<<帳票Webサービスのインストールディレクトリ>>¥inetpub¥LCWebSvc  
以下にデフォルトのインストールディレクトリを示します。  
- (インストールドライブ):¥Program Files¥LCWebService (\*1)  
または  
- (インストールドライブ):¥Program Files (x86)¥LCWebService (\*2)  
(\*)1)32bit OSの場合。(\*)2)64bit OSの場合  
指定が終わったら、[OK]をクリックします。
- (g) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」画面を閉じます。

- (6) (Windows Server 2003、またはWindows2000の場合) 帳票Webサービスが動作するIISのWebサイトには、「スクリプトのみ」、または、「スクリプトおよび実行可能ファイル」のいずれかの実行アクセス許可を設定してください。

7. 2 アンインストール

7. 2. 1 アンインストール手順

- (1) インストール先のサーバを再起動します。
- (2) インストールを実行したユーザでログインします。
- (3) 帳票Webサービスを使用するユーザアプリケーションが実行中の場合は、そのアプリケーションを終了します。
- (4) 「コントロールパネル」から「帳票Webサービス」をアンインストールします。
- (5) コンピュータを再起動します。

7. 2. 2 手動で製品を削除する場合

インストール時の不測の事態により、再インストールまたはアンインストールが正常に動作しなくなった場合、以下の手順によりハードディスク上から全ての関連資産を削除することで元の環境に復旧することができます。

なお、この作業を行う前に起動中のアプリケーションをすべて終了させてください。

- (1) インストール先のサーバを再起動します。
- (2) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (3) 実行コンポーネントを、アセンブリ キャッシュから削除します。  
[.NET Framework 1.1 を使用している場合]
  - a) [.NET Configuration 1.1] を以下のように起動します。  
(Windows2000の場合)  
[スタート]－[プログラム]－[管理ツール]－[Microsoft .NET Framework 1.1 構成]  
(Windows Server 2003の場合)  
[スタート]－[すべてのプログラム]－[管理ツール]－[Microsoft .NET Framework 1.1 構成]
  - b) [.NET Configuration 1.1] の左の画面で、[.NET Configuration 1.1]－「マイコンピュータ」と展開して、「アセンブリ キャッシュ」をクリックします。
  - c) 右の画面の「アセンブリ キャッシュの アセンブリ一覧の表示」をクリックします。
  - d) 登録されたアセンブリ キャッシュの一覧が右の画面に表示されますので、一覧に f3gbwbs0 があれば、その f3gbwbs0 を右ボタンクリックして、「削除」を実行します。
  - e) [.NET Configuration 1.1] 画面を閉じます。  
[.NET Framework 2.0, または3.0, または3.5を使用している場合]
  - a) [エクスプローラ] を起動し、Windowsディレクトリ配下のassemblyフォルダを開きます。
  - b) assemblyディレクトリの内容一覧が表示されますので、一覧に f3gbwbs0 があれば、その f3gbwbs0 を右ボタンクリックして、「アンインストール」を実行します。
  - c) [エクスプローラ] 画面を閉じます。
- (4) 実行コンポーネントを、コンポーネント サービスから削除します。
  - a) [コンポーネント サービス] を以下のように起動します。  
(Windows2000の場合)  
[スタート]－[プログラム]－[管理ツール]－[コンポーネント サービス]  
(Windows Server 2003, またはWindows Server 2008の場合)  
[スタート]－[すべてのプログラム]－[管理ツール]－[コンポーネント サービス]
  - b) [コンポーネント サービス] の左の画面で、[コンポーネント サービス]－[コンピュータ]－[マイコンピュータ]－[COM+ アプリケーション]と展開し、f3gbwbs0が存在するか確認します。f3gbwbs0が存在した場合は、右ボタンクリックし、「削除」を実行します。
  - c) [コンポーネント サービス] 画面を閉じます。
- (5) IISに登録されたモジュールを削除します。
  - a) [インターネット インフォメーション サービス マネージャ] を以下のように起動します。  
(Windows2000の場合)  
[スタート]－[プログラム]－[管理ツール]－[インターネット サービス マネージャ]  
(Windows Server 2003, またはWindows Server 2008の場合)  
[スタート]－[すべてのプログラム]－[管理ツール]－[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ]
  - b) [インターネット インフォメーション サービス マネージャ] の左の画面で、以下のように展開します。  
(Windows2000の場合)  
[インターネット インフォメーション サービス]－[<<サーバ名>>]－

- [既定の Web サイト] (\*)  
 (Windows Server 2003の場合)  
 [インターネット インフォメーション サービス]—[<<サーバ名>>(ローカルコンピュータ)]—[Web サイト]—[既定の Web サイト] (\*)  
 (\*注)「既定の Web サイト」はポート番号が80のものを展開します。  
 (Windows Server 2008の場合)  
 [<<帳票Webサービスが動作するサーバ名>>]—[サイト]—[Default Web Site]または[既定の Web サイト]
- c) [インターネット インフォメーション サービス マネージャ] の左の画面の一覧に「LCWebSvc」が存在すれば、右ボタンクリックし「削除」を実行します。
- d) [インターネット インフォメーション サービス マネージャ] 画面を閉じます。
- (6) 帳票Webサービスのインストールフォルダを削除します。  
 [エクスプローラ] を起動し、インストール時に指定したフォルダを削除してください。  
 以下にデフォルトのフォルダ名を記述します。これを参考に該当するフォルダを削除してください。
- (インストールドライブ):%Program Files%LCWebService (\*1)  
 または
  - (インストールドライブ):%Program Files (x86)%LCWebService (\*2)  
 (\*1)32bit OSの場合。( \*2)64bit OSの場合
- (7) レジストリを削除します。  
 [レジストリエディタ] (Windowsフォルダ配下のSYSTEM32サブフォルダ内の [REGEDT32.EXE] ) を起動し、以下のレジストリキーのうち該当するキー配下を全て削除してください。
- a) HKEY\_LOCAL\_MACHINE%SYSTEM%CurrentControlSet%Services%EventLog  
 %Application配下の以下のキー
- ListCREATOR:LCWebSvc
- b) HKEY\_LOCAL\_MACHINE%SOFTWARE%Microsoft%Windows%CurrentVersion  
 %Uninstall配下の以下のキー
- [4AB129C0-FC8E-4208-9B5D-EA6407AF7520]
- (8) 上記操作の終了後、コンピュータの再起動を行ってください。

## 7. 2. 3 アンインストール時の留意事項

- (1) アンインストール実行中に、キャンセルボタンを押下してアンインストールを中断した場合、アンインストール開始から中断までに削除された一部のファイルは復旧されません。また、一部の環境設定情報も削除されます。  
 アンインストールを中断した場合、それ以降は製品が正しく動作しませんので、再度アンインストールを実行し、すべてのファイルおよび環境を削除した上で、再度インストールを行ってください。
- (2) アンインストールは、インストールを実行したユーザでログインして行ってください。インストールを実行したユーザでログインしなければ、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」(Windows2000の場合)、または「プログラムの追加と削除」(Windows Server 2003の場合)、または「プログラムと機能」(Windows Server 2008の場合)の「インストールと削除」タブの一覧に「帳票Webサービス」が表示されません。
- (3) インストール実行時に、「IISにポート番号80のWeb サイト」が存在しない場合、インストール時に作成されたポート番号80のWeb サイトは、アンインストール時に

削除されません。その場合は、「3. 2. 1 アンインストール手順」に従って帳票Webサービスのアンインストールを実行後に、以下の手順でポート番号80のWebサイトを削除してください。

- (a) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」を以下のよう  
に起動します。  
(Windows Server 2003、またはWindows Server 2008の場合)  
[スタート]—[すべてのプログラム]—[管理ツール]—[インターネット イン  
フォメーション サービス (IIS) マネージャ]  
(Windows2000の場合)  
[スタート]—[プログラム]—[管理ツール]—[インターネット サービス マ  
ネージャ]
  - (b) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面  
で、以下のように展開します。  
(Windows Server 2003の場合)  
[インターネット インフォメーション サービス]—[<<サーバ名>>(ローカ  
ルコンピュータ)]—[Web サイト]—[既定の Web サイト](\*)  
(Windows Server 2008の場合)  
[<<帳票Webサービスが動作するサーバ名>>]—[サイト]—[Default Web  
Site]または[既定の Web サイト](\*)  
(Windows2000の場合)  
[インターネット インフォメーション サービス]—[<<サーバ名>>]—[既定  
の Web サイト](\*)  
(\*注)ポート番号が80のものを展開します。
  - (c) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面で  
[既定の Web サイト](Windows Server 2003、またはWindows2000の場合)、また  
は[Default Web Site]または[既定の Web サイト](Windows Server 2008の場  
合)を右ボタンクリックし、[削除]を実行します。
  - (d) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」画面を閉じま  
す。
- (4) ポート番号80以外のポート番号で帳票Webサービスを使用する設定を行った場合  
は、アンインストールを以下の手順で行ってください。
- (a) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
  - (b) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」を以下のよう  
に起動します。  
(Windows Server 2003、またはWindows Server 2008の場合)  
[スタート]—[すべてのプログラム]—[管理ツール]—[インターネット イン  
フォメーション サービス (IIS) マネージャ]  
(Windows2000の場合)  
[スタート]—[プログラム]—[管理ツール]—[インターネット サービス  
マネージャ]
  - (c) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面  
で、以下のように展開します。  
(Windows Server 2003の場合)  
[インターネット インフォメーション サービス]—[<<サーバ名>>(ローカ  
ルコンピュータ)]—[Web サイト]—<<帳票Webサービスが存在するWebサイト>>  
(Windows Server 2008の場合)  
[<<帳票Webサービスが動作するサーバ名>>]—[サイト]—[Default Web  
Site]または[既定の Web サイト]  
(Windows2000の場合)  
[インターネット インフォメーション サービス]—[<<サーバ名>>]—  
<<帳票Webサービスが存在するWebサイト>>
  - (d) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」の左の画面の  
一覧にある[LCWebSvc]を右ボタンクリックし、[削除]を実行します。
  - (e) 「インターネット インフォメーション サービス マネージャ」画面を閉じま  
す。
  - (f) 「7. 2. 1 アンインストール手順」に記された手順で、本機能のアンイ  
ンストールを実行します。

7. 3 サイレントインストールについて  
本機能はサイレントインストールをサポートしていません。
7. 4 インターネット環境での利用について  
帳票Webサービスは、インターネット環境下での利用を想定していません。必ずイントラネット環境下で利用してください。
7. 5 留意事項
7. 5. 1 実行時の注意事項
- (1) 帳票Webサービスの実行には、IISに定義された帳票Webサービスの仮想ディレクトリが存在するWebサイトが開始状態でなければ、開始に状態を変更してください。  
Webサイトの開始方法は、IISのヘルプを参照してください。  
以下に、帳票Webサービスのデフォルトの定義先のWebサイトを示します。
- ポート番号80の「既定の Web サイト」
- (2) 入力データをメモリ渡すメソッドを使用して帳票出力する場合、入力データの量が2Mバイトを超える場合は、以下のファイルの設定を適切な値に変更してください。
- ファイル名  
[帳票Webサービスインストールフォルダ]¥inetpub¥LCWebSvc¥Web.config
  - 設定箇所  
<system.web>の直後の行に、以下の定義を挿入します。

```
<httpRuntime maxRequestLength="NNNNN" />
```

NNNNNには、以下の値を設定します。  
(入力データの最大量(MB) \* 4096 / 3) + 1024  
なお、NNNNNは整数値を設定してください。

(設定例)  
メモリ渡す入力データの量の最大値が20MBの場合。  
<httpRuntime maxRequestLength="28330" />

※補足 : NNNNNの設定値は  
 $(20(\text{MB}) * 4096 / 3) + 1024 = 28330.666\dots$   
→ 整数部を使用して 28330

IIS 7を使用している場合は、上記の設定に加えて、<configuration>の直後の行に以下の定義を挿入します。

```
<system.webServer>
  <security>
    <requestFiltering>
      <requestLimits maxAllowedContentLength="MMMMM" />
    </requestFiltering>
  </security>
</system.webServer>
```

MMMMMには、以下の値を設定します。  
(入力データの最大量(MB) \* 1024 \* 4096 / 3) + 1024 \* 1024  
なお、MMMMMは整数値を設定してください。

(設定例)  
メモリ渡す入力データの量の最大値が20MBの場合。

```
<system.webServer>
  <security>
    <requestFiltering>
      <requestLimits maxAllowedContentLength="27943594" />
    </requestFiltering>
```

</security>  
</system.webServer>

※補足：MMMMの設定値は  
(20(MB)\*1024\*4096/3)+1024\*1024=27943594.6...  
→ 整数部を使用して 27943594

- 注意事項  
必ずWeb.configファイルのバックアップを取ってから変更してください。

#### 7. 5. 2 運用上の注意事項

- 運用上の注意事項につきましては、オンラインマニュアル「帳票Webサービス機能編」の「第6章 運用上の注意」に記載されています。

#### 8. SSIS連携機能について

##### 8. 1 インストール

##### 8. 1. 1 インストール手順

- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) CD-ROMの%LCSSIS%setup.exe を起動します。
- (3) インストーラが起動されますので、表示されるメッセージにしたがってインストールを行います。

##### 8. 1. 2 インストールに関する留意事項

- (1) 本製品のインストールは、必ず付属のインストールプログラムで行ってください。COPYコマンドなどで複製した場合は動作しません。
- (2) 本製品のインストールの前に、使用する環境に必須ソフトウェアを必ずインストールしてください。

##### 8. 2 アンインストール

##### 8. 2. 1 アンインストール手順

- (1) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (2) SSIS連携機能を使用するユーザアプリケーションが実行中の場合は、そのアプリケーションを終了します。
- (3) [コントロールパネル] から「List Creator SSIS連携機能」をアンインストールします。

##### 8. 2. 2 手動で製品を削除する場合

インストール時の不測の事態により、再インストールまたはアンインストールが正常に動作しなくなった場合、以下の手順によりハードディスク上から全ての関連資産を削除することで元の環境に復旧することができます。

なお、この作業を行う前に起動中のアプリケーションをすべて終了させてください。

- (1) インストール先のサーバを再起動します。
- (2) Administratorsグループに属するユーザでログインします。
- (3) 実行コンポーネントを、アセンブリ キャッシュから削除します。
  - a) [エクスプローラ] を起動し、Windowsディレクトリ配下のassemblyフォルダを開きます。
  - b) assemblyディレクトリの内容一覧が表示されますので、一覧に f3gbwdts があれば、その f3gbwdts を右ボタンクリックして、「アンインストール」を実行します。
  - c) [エクスプローラ] 画面を閉じます。

- (4) ファイルを削除します。
  - a) SQL Server 2005インストールディレクトリ配下  
Microsoft SQL Server¥90¥DTS¥PipelineComponents サブディレクトリ内の以下のファイルを削除します。
    - f3gbwdts.dll
  - b) List Creatorインストールディレクトリ配下の以下のファイルを削除します。
    - f3gbwdtw.dll
    - f3gbfdia.dll
- (5) レジストリを削除します。

[レジストリエディタ] (Windowsフォルダ配下のSYSTEM32サブフォルダ内の [REGEDT32.EXE]) を起動し、以下のレジストリキーのうち該当するキー配下を全て削除してください。

  - a) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion ¥Uninstall配下の以下のキー
    - [5E015C01-2E7F-431B-8DF0-64270B67EAB8]
- (6) 上記操作の終了後、コンピュータの再起動を行ってください。

### 8. 2. 3 アンインストール時の留意事項

アンインストール実行中に、キャンセルボタンを押下してアンインストールを中断した場合、アンインストール開始から中断までに削除された一部のファイルは復旧されません。また、一部の環境設定情報も削除されます。

アンインストールを中断した場合、それ以降は製品が正しく動作しませんので、再度アンインストールを実行し、すべてのファイルおよび環境を削除した上で、再度インストールを行ってください。

### 9. Java実行環境パッケージについて

本製品をインストールすると、富士通のJava実行環境パッケージが以下のフォルダにインストールされます。

[Java実行パッケージのインストール先]  
List Creatorインストールディレクトリ¥jvm

本製品によりインストールされたJava実行環境は、List Creatorが使用します。

上記目的以外(お客様のアプリケーションのJava実行環境として使用など)では使用できません。

### 10. 製品版と体験版の違い

- (1) 評価期間は90日です。評価期間を経過しますと本製品を起動できなくなります。Interstageの製品情報については、以下のURLでご覧になれます。  
<http://interstage.fujitsu.com/jp/>
- (2) 体験版のList Creator デザイナで作成した帳票は、体験版のList Creatorでのみ使用可能です。製品版のList Creatorで使用することはできません。
- (3) 体験版のList Creator デザイナで作成した帳票をWeb手元印刷する場合、コンポーネント機能を使用することはできません。Webアプリケーション連携機能を使用して、Web手元印刷を行ってください。

## 1 1. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルの参照には、マニュアルナビをご利用ください。マニュアルナビとは、オンラインマニュアルを参照するためのツールです。オンラインマニュアルが目的別に分類されているため、必要なオンラインマニュアルを簡単に参照できます。

マニュアルナビは、以下から起動します。

〈スタートメニューから起動する場合〉

[スタート]－[すべてのプログラム]－[List Creator]－[マニュアルナビ] を起動します。

〈CD-ROM媒体から起動する場合〉

CD-ROMの¥Manual¥LCMaNavi.exe を起動します。

マニュアルナビを使用するには、まずAdobe Reader 6.0以降をコンピュータにインストールする必要があります。

Adobe Readerは、以下のいずれかの方法にて入手してください。

1. アドビシステムズ社のホームページ (<http://www.adobe.co.jp>) からダウンロードする。
2. アドビシステムズ社のAcrobat (製品版) を購入する。
3. 書籍等の付録より入手する。

(\*) Adobe Readerは、PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを閲覧・印刷するソフトウェアです。

なお、マニュアルナビから参照できないオンラインマニュアルは、直接、ファイルを参照してください。参照するファイルが格納されているフォルダ、およびファイル名は、オンラインマニュアル「マニュアル体系と読み方」の「マニュアル体系」を参照してください。

## 1 2. サンプルについて

本製品を使用して帳票を出力するサンプルがデータファイルを使用する場合は42種類 (可変長/固定長/GSV形式: 37種類、XML形式: 5種類)、OCI連携機能によるデータベース (Oracle) 連携は24種類用意してあります。

詳しくは、製品インストールディレクトリ配下のサンプル説明書 (SampleFm.txt、SampleOr.txt、SampleXm.txt) をご覧ください。

## 1 3. デジタル署名について

本製品では、Web手元印刷機能で使用するWebコントロールおよびWebプラグインに対し、デジタル署名して出荷しています。本製品に含まれるWebコントロールおよびWebプラグインに署名した証明書の有効期限は、以下のとおりです。

有効期限: 2009年02月15日

Web手元印刷機能は、証明書の有効期限内にデジタル署名をしています。

Web手元印刷機能をWebブラウザ上で利用するとき、WebコントロールおよびWebプラグインをダウンロードする際には安全性を確認するためのダイアログが表示されます。表示内容は、使用しているWebブラウザによって違いがあります。

### 1) Microsoft (R) Internet Explorer V5.0以降を利用の場合

Microsoft (R) Internet Explorer V5.0以降を利用されている場合、「セキュリティ警告」画面が表示されます。デジタル署名された日時が証明書の有効期限以内であること、製品名と会社名「FUJITSU LIMITED」を確認し、ActiveXコントロールをダウンロードして利用するかどうか判断してください。

この画面の会社名 (FUJITSU LIMITED) をクリックすると「証明書」画面が表示されます。「証明書」画面は、証明書の内容を示したものです。

“FUJITSU LIMITEDからのコンテンツを常に信頼する” をチェック (レ印) した場

合、以降は証明書の有効期限に関係なく確認の操作を省略します。

#### 14. 制限事項

- (1) Windows Server 2008の場合、「環境設定」画面の「全般」タブにおいて“通常使うプリンタ”を設定することができません。  
以下の運用形態で帳票出力サーバにWindows Server 2008を使用する場合は、帳票出力インタフェースで必ず印刷プリンタ名を指定するようにしてください。
  - ・ リモート帳票出力型
  - ・ コネクタ連携型
  - ・ データ到着監視機能使用時
  - ・ サービスプログラムから帳票出力を行う形態

#### 15. 留意事項

##### 15.1 帳票の出力時および出力環境に関する留意事項

- (1) 網がけを重畳する場合、網がけを透過モードで印刷します。しかし、プリンタドライバによっては透過モードが有効にならないものがあります。  
透過モードが無効になるプリンタドライバを使用して網がけを重畳して印刷すると、行方向で下方に定義されている網がけが後から印刷されるため上に重なって印刷され、下になった網がけは印刷されません。
- (2) プリンタ装置、解像度によって、網がけおよび罫線の出力結果が異なる場合があります。
- (3) 漢字以外の全角文字をプリンタのデバイスフォントで印字すると、文字化けすることがあります。
- (4) デバイスフォントを使用して印字を行うと、指定した文字の大きさに出力されないことがあります。
- (5) プリンタ装置、プリンタドライバ、解像度によっては、指定した文字のサイズが異なる場合があります。
- (6) システムのスプールフォルダの容量に空きがない場合、帳票を出力すると、コマンドまたはメソッドなどは正常終了するが、帳票が何も出力されない、あるいは途中までしか出力されない場合があります。このような場合、スプールフォルダの容量を増やしてから、再度帳票の出力を実行してください。
- (7) 段組み印刷時に両面印刷を行うと、両面印刷可能なプリンタでも片面で印刷される場合があります。
- (8) 帳票を出力し、スプール中に印刷要求をキャンセルすると、使用しているプリンタドライバによっては、しばらく処理が復帰せず、その後「帳票の出力中にエラーが発生しました。メモリまたはリソースが不足している可能性があります。詳細コード：[86]」というエラーになる場合があります。
- (9) バーコード補正情報ファイルで、ドット補正を指定した場合、指定したドット数が、出力するバーコードの基本モジュール幅を超える場合には、「バーコード出力中にエラーが発生しました。詳細コード：[47]」というエラーになる場合があります。
- (10) QR Code(モデル1、モデル2、マイクロQR)に数字のみのデータを指定して出力する場合に、“項目長に満たない文字に空白を詰める”を指定すると、QRコードの出力最大文字数は、英数字+記号を指定した場合と同様となります。

##### 15.2 データベース(Oracle)連携時の留意事項

データベース(Oracle)のデータ型に合わせて、帳票に項目を追加する場合のポイントと、データ取得時のSELECT文の指定形式を説明します。

なお、帳票の項目のプロパティの項目長で指定した指定値よりも実際のデータが長

いは、項目長で指定した長さに切り捨てられます。  
その他の属性（項目名、領域長、位置（縦／横）など）は、適宜設定してください。

項目の属性の設定 データベース のデータ型 (*9)	項目種別	項目長	小数部	編集 形式 (分類)	バー コード 種別	データ取得時の SELECT文の指定形 式(*1)
VARCHAR2 (num) CHAR (num)						
バーコード 出力用デー タ	バーコード 項目(*10)	(*2)	—	—	(*3)	項目名
メディア データファ イル名(*4)	組込みメ ディア項目	num	—	—	—	項目名
上記以外	テキスト 項目 矩形テキ スト項目 ラジオボ タン項目 チェッ クボックス 項目	num	—	標準	—	項目名
LONG	テキスト 項目 矩形テキ スト項目 ラジオボ タン項目 チェッ クボックス 項目	(*5)	—	標準	—	項目名
NUMBER (s, p)						
郵便番号	テキスト 項目	—	—	郵便	—	LPAD(項目名, 7, '0')(*6)
上記以外	数字項目	s	p	数値	—	項目名
DATE						
出力時に 変換する 場合	数字項目	—	—	日付	—	TO_CHAR(項目名, 'YYYYMMDD') (*7)
Oracleの 初期値の 形式で 出力する 場合	テキスト 項目	(*8)	—	標準	—	項目名

\*1：データ取得時のSELECT文の指定形式の詳細は、Oracleのマニュアル(SQLリファレンス)を参照してください。

- \*2 : バーコード種別によって異なります。
- \*3 : 出力したいバーコード種別を選択します。
- \*4 : 指定できるメディアデータのファイルは、ビットマップ、TIFF、JPEG、OLE2オブジェクト、PNGです。出力方法により指定できるメディアデータが異なりますので、List Creatorのオンラインマニュアルまたはオンラインヘルプでご確認ください。
- \*5 : 実際のデータの最大長または出力したい最大長を指定します。
- \*6 : 必ず郵便番号の左側の空白を'0'でパディングしてください。
- \*7 : 「YYYYMMDD」の形式でデータを取得してください。
- \*8 : 日付が出力できる長さを指定します。
- \*9 : 上記の表以外のデータベースのデータ型は指定しないでください。
- \*10 : バーコード項目は、英数字データをバーコードに変換して出力します。

### 15.3 PDF変換機能による出力時の留意事項

#### 15.3.1 バーコード印刷

バーコードを印刷する場合は、あらかじめお使いのプリンタに出力したのち、読み取り装置で正しく読み取れることを確認してください。

推奨出力解像度 : 600dpi以上

#### 15.3.2 イメージ透過機能

イメージ透過機能は、RGBでカラーを表現している2色のビットマップデータ、TIFFデータ、またはPNGデータのみをサポートしています。

サポート外のイメージを使用した時には、「PDF出力時にエラーが発生しました。PDF変換機能のログ情報でエラーの詳細を確認してください。詳細コード : [9M]」というエラーになる場合があります。

### 15.4 XML形式の入力データを使用する場合の留意事項

XML形式の入力データを使用して帳票を出力した時に、エラーとなった場合のエラー内容に表示される行桁位置は、エラー検出時の読み込み済みの位置が表示されますので、実際のファイルのエラーの位置とは異なっていることがあります。

### 15.5 データ保全に関する留意事項

万が一の場合に備えて、ユーザアプリケーションや帳票資源などのバックアップをとっておくことをお勧めします。帳票資源は帳票設計を行ったコンピュータにも保存するようにしてください。

### 15.6 コネクタ連携機能使用時の留意事項

#### 15.6.1 コネクタ連携機能が動作する Java実行環境

コネクタ連携機能使用時に、富士通から提供しているJava実行環境パッケージを使用した時に、JVM(Java Virtual Machine)が異常終了する場合があります。

この場合には、以下の手順に従って、環境設定ファイル(javaoption.inf)を変更してください。なお、このオプションの追加は、コネクタ連携機能のセットアップ後に行なってください。

- 1) 次のサービスを停止します。
  - ListCREATOR RemotePrint
  - ListCREATOR Connector
- 2) 以下に格納されている環境設定ファイル(javaoption.inf)のJavaコマンドの起動オプションに-hotspotオプションを追加してください。
 

[格納先]  
List Creatorインストールディレクトリ¥remoteprint¥daemon¥bin

[変更内容]  
JREインストールディレクトリ¥javaw.exe -hotspot ... (コネクタ機能のセットアップで追加されているオプション)...
- 3) 次のサービスを開始します。
  - ListCREATOR RemotePrint
  - ListCREATOR Connector

#### 1 5. 7 Web手元印刷機能使用時の留意事項

##### 1 5. 7. 1 Windowsの更新プログラム [KB912945] 適用時の問題について

Windows更新プログラム (Internet Explorerの累積的なセキュリティ更新プログラム) [KB912812] (以下、[KB912812]パッチ)には、Internet ExplorerでのActiveXコントロールに関する仕様変更(以下、IEの仕様変更)が含まれています

IEの仕様変更により、次の条件時に、HTMLに貼り付いたWebコントロールについて、クリック操作を行わないと、Webコントロールがアクティブ化されない現象が発生します。

- (1) Webクライアントに、[KB912812]パッチが適用されている、かつ
- (2) アプリケーションのHTMLにおいて、OBJECT要素「<OBJECT>タグや createElement('object')」で、Webコントロールが使用されている、かつ
- (3) (2)のHTMLを開いた場合

当現象を発生させない(クリック操作なしで、Webコントロールをアクティブ化させる)ための恒久的な対応方法について、マイクロソフト社の推奨している手法がありますので、以下のURLをご参照ください。

- ・ ActiveX コントロールのアクティブ化  
[http://www.microsoft.com/japan/msdn/workshop/author/dhtml/overview/activating\\_activex.aspx](http://www.microsoft.com/japan/msdn/workshop/author/dhtml/overview/activating_activex.aspx)

なお、このURLの内容と一部重複しますが、簡単な例を次に示します。

#### 対処例

外部スクリプトファイルを作成し、そのスクリプトファイル内でActiveXコントロールを呼び出します。

- ・ sample.html

```
<html>
  <body>
    <!--外部スクリプトファイルを呼び出す-->
    <script src="object.js"></script>
  </body>
</html>
```

- ・ object.js (外部スクリプトファイル)

```
document.write('<object id="WEBOBJECT"');
document.write(' classid="clsid:XXX" ...>');
document.write('</object>');
```

#### 1 5. 7. 2 OWFファイル生成時の留意事項

OWFファイル生成時に、外字エンベッド指定と置換フォント情報ファイルを同時に指定した場合、エンベッドされた外字は出力されません。

#### 1 5. 8 Windows Server 2008を使用する場合の留意事項

- (1) Windows Server 2008で帳票出力を行う場合、以下の機能は使用できません。
  - ビルドインAdministrator以外のユーザでのサイレントインストール
  - ERP連携機能
  - XBRLデータ対応機能

次の帳票出カインタフェースは使用できません。

- CFXカスタムタグインタフェース

- (2) List Creatorは、Server Coreに対応していません。

- (3) Excelファイル出力機能を使用して帳票を出力する場合、Windows Server 2003と比較して多くの処理時間を要する場合があります。

#### 1 5. 9 Windows 64 ビットOSを使用する場合の留意事項

Windows 64 ビットOS 使用時、Windows 32 ビットOS 使用時に加えて、以下の留意事項があります。

- (1) 以下の機能は使用できません。
  - ERP連携機能
  - Web手元印刷機能(コンポーネント機能)
  - XBRLデータ対応機能
  - OCI連携機能
- (2) 次の帳票出力インターフェースを使用する場合は、次の注意が必要です。
  - COMインターフェース  
ASPから利用する場合、Internet Information Serverは、32ビットモードで起動する必要があります。
  - .NETインターフェース  
ASP.NETから利用する場合、Internet Information Serverは、32ビットモードで起動する必要があります。
  - Javaインターフェース  
32ビットのJavaでのみ使用可能です。
  - コネクタ連携機能  
32ビットのJavaでのみ使用可能です。

#### 1 5. 1 0 JIS2004対応について

JIS X 0213で追加された文字は正しく扱えない場合がありますので、使用しないでください。

#### 1 5. 1 1 IPv6 (Internet Protocol Version 6) について

List Creatorは、IPv6に対応していません。

#### 1 6. ご使用条件

本製品をご提供するにあたり下記にご同意いただくことを条件とさせていただいておりますので、本製品をご使用される前に必ず下記をお読みください。

なお、お客様がご使用された場合には、同意いただいたものとしますので、万一ご同意いただけない場合には、使用しないでください。

- ・本製品は日本国内での使用が原則です。お客様のご都合により本ソフトウェアを日本国外へ輸出等することにより持ち出す必要がある場合は、「外国為替および外国貿易法」に基づき経済産業省の許可が必要となります。なお、お客様が、本ソフトウェアを日本国外に持ち出し、使用された場合に、日本および当該国の法令等に違反していることで政府または第三者より何らかの請求または訴えの提起を受け、お客様が何らかの支障や損害を被っても、弊社は一切責任を負いません。また、お客様が本項に違反することにより弊社が損害を被った場合、お客様にその賠償を請求する場合があります。

#### 付録A. Apache Licenseのライセンス文

本製品は、Apache Software Foundationによって開発されたソフトウェア(Logging-log4j 1.2.13)を含んでいます。

This product includes software developed by The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

以下に「Apache License Version 2.0」のライセンス文を示します。

Apache License  
Version 2.0, January 2004

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity

on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.
3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.
4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:
  - (a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and
  - (b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and
  - (c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and
  - (d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. **Submission of Contributions.** Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.
6. **Trademarks.** This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.
7. **Disclaimer of Warranty.** Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.
8. **Limitation of Liability.** In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.
9. **Accepting Warranty or Additional Liability.** While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

APPENDIX: How to apply the Apache License to your work.

To apply the Apache License to your work, attach the following boilerplate notice, with the fields enclosed by brackets "[]" replaced with your own identifying information. (Don't include

the brackets!) The text should be enclosed in the appropriate comment syntax for the file format. We also recommend that a file or class name and description of purpose be included on the same "printed page" as the copyright notice for easier identification within third-party archives.

Copyright 1999–2005 The Apache Software Foundation

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

#### 付録B. libjpegについて

本製品は、JPEG の出力機能において、libjpeg を使用しています。  
This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

#### 付録C. Info-ZIPについて

本製品は、Excelファイル出力機能において、Info-ZIP を使用しています。  
以下に「Info-ZIP」のライセンス文を示します。

This is version 2007-Mar-4 of the Info-ZIP license.  
The definitive version of this document should be available at  
<ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/license.html> indefinitely and  
a copy at <http://www.info-zip.org/pub/infozip/license.html>.

Copyright (c) 1990–2007 Info-ZIP. All rights reserved.

For the purposes of this copyright and license, "Info-ZIP" is defined as the following set of individuals:

Mark Adler, John Bush, Karl Davis, Harald Denker, Jean-Michel Dubois, Jean-loup Gailly, Hunter Goatley, Ed Gordon, Ian Gorman, Chris Herborth, Dirk Haase, Greg Hartwig, Robert Heath, Jonathan Hudson, Paul Kienitz, David Kirschbaum, Johnny Lee, Onno van der Linden, Igor Mandrichenko, Steve P. Miller, Sergio Monesi, Keith Owens, George Petrov, Greg Roelofs, Kai Uwe Rommel, Steve Salisbury, Dave Smith, Steven M. Schweda, Christian Spieler, Cosmin Truta, Antoine Verheijen, Paul von Behren, Rich Wales, Mike White.

This software is provided "as is," without warranty of any kind, express or implied. In no event shall Info-ZIP or its contributors be held liable for any direct, indirect, incidental, special or consequential damages arising out of the use of or inability to use this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the above disclaimer and the following restrictions:

1. Redistributions of source code (in whole or in part) must retain the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions.
2. Redistributions in binary form (compiled executables and libraries) must reproduce the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions in documentation and/or other materials provided with the distribution. The sole exception to this condition is redistribution of a standard UnZipSFX binary (including SFXWiz) as part of a self-extracting archive; that is permitted without inclusion of this license, as long as the normal SFX banner has not been removed from the binary or disabled.
3. Altered versions—including, but not limited to, ports to new operating systems, existing ports with new graphical interfaces, versions with modified or added functionality, and dynamic, shared, or static library versions not from Info-ZIP—must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source or, if binaries, compiled from the original source. Such altered versions also must not be misrepresented as being Info-ZIP releases—including, but not limited to, labeling of the altered versions with the names “Info-ZIP” (or any variation thereof, including, but not limited to, different capitalizations), “Pocket UnZip,” “WiZ” or “MacZip” without the explicit permission of Info-ZIP. Such altered versions are further prohibited from misrepresentative use of the Zip-Bugs or Info-ZIP e-mail addresses or the Info-ZIP URL(s), such as to imply Info-ZIP will provide support for the altered versions.
4. Info-ZIP retains the right to use the names “Info-ZIP,” “Zip,” “UnZip,” “UnZipSFX,” “WiZ,” “Pocket UnZip,” “Pocket Zip,” and “MacZip” for its own source and binary releases.

=====  
Interstage、Systemwalker、およびSymfoware は、富士通株式会社の登録商標です。  
ActiveX、Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Visual Basic、  
Visual C++、Visual C#、Visual J# は、米国Microsoft Corporation の米国および  
その他の国における登録商標または商標です。  
Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat、およびAcrobat ロゴは、Adobe Systems  
Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標または商標です。  
Oracle は、米国Oracle Corporation の登録商標です。  
その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

Copyright 2008 FUJITSU LIMITED  
All Rights Reserved, Copyright (C) 株式会社 P F U 2001-2008.